

孢子画フロンティア

木下 裕美

孢子画のきっかけは、2010年7月、どんぐりキノコ栽培の失敗から、ヒトヨタケの仲間が発生したことに始まります。ヒトヨタケはカサが黒くなり翌朝には溶けてしまうきのこです。



ヒトヨタケの仲間 (2010年)

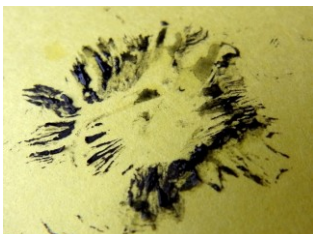


ササクレヒトヨタケ

それから3年後、『インクキノコ』の異名を持つササクレヒトヨタケを食べる目的で持って帰る機会がありました。3本のうち2本は食べたのですが、残りの1本が黒くなってしまいました。昔のことを思い出し、その溶けたカサの汁で絵を描いてみました。翌朝、お皿にはカサの模様だけが残っていました。



翌朝！真っ黒に！



これは使える！と閃きました！



孢子画 第一号 (2013年)

『ササクレヒトヨタケのインクの作り方』



柄やツバはインクにならないので、先に外します。時間の経過とともにカサの縁から黒く液化していきます。もちろんそのままでも使えますが、溶けて黒くなったカサを水によく溶かします。それを漉して不純物を取り除き、自然乾燥で水分を蒸発させて固体にして保存しておけば、いつでも水で溶かして使えます。ヒトヨタケでも作り方は同様です。

『ツチグリンク誕生のエピソード』



ツチグりはまず、水に浸けます。水から取り出し時間を置くと次第に外の厚い皮が自ら開いて立ち上がり、乾燥するとまた閉じてしまいます。その瞬間わずかに移動します。これが、『歩くきのこ』なる所以です。インクはその開いているタイミングで袋の中の胞子を集めます。まだ開いてない場合は厚い皮を剥いて、中の薄皮を丁寧に剥がすと胞子の塊が顔を出します。(画像参照) ヒトヨタケ類と違って、ツチグリの胞子は水には全く溶けません。最初は焦りました。逆の発想で、油には?とやってみると驚くほどすんなり溶けました。ところが紙に描くと油が滲んでしまいあえなく失敗に。次の作戦として食器用洗剤を使いました。見事、滑らかに溶けました。しかし残念なことに乾くとサラサラと落ちてしまい、これもインクとしては成立しませんでした。そこで定着剤としてお菓子作り用のゼラチンは使えないかと混ぜてみました。そんな工夫や試行錯誤の中、やっとの思いで 2015 年にツチグリのインクが誕生しました。



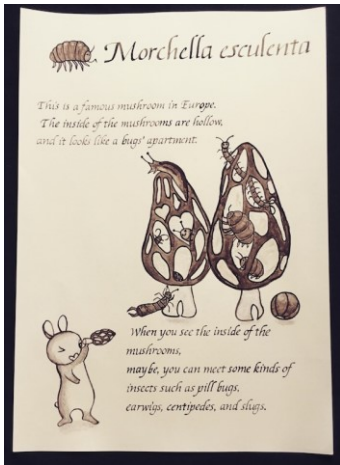
こんなツチグリモ水に浸けると?



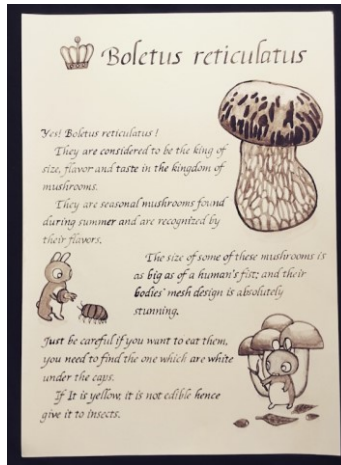
歩くきのこツチグリンなる所以



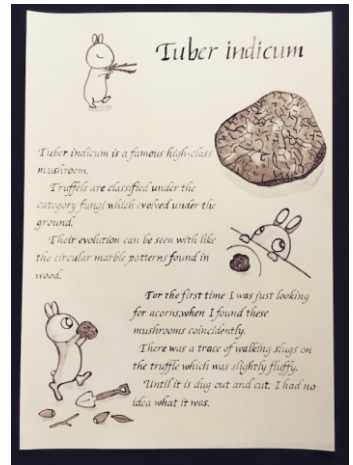
意外にもたくさんの胞子が



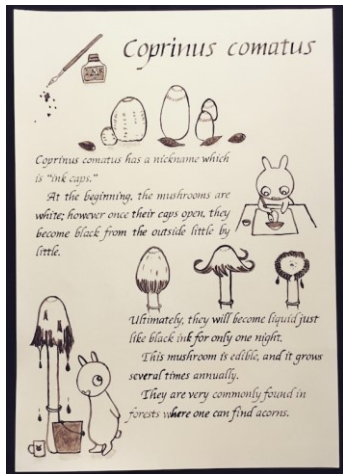
『虫たちのマンション』
アミガサタケ



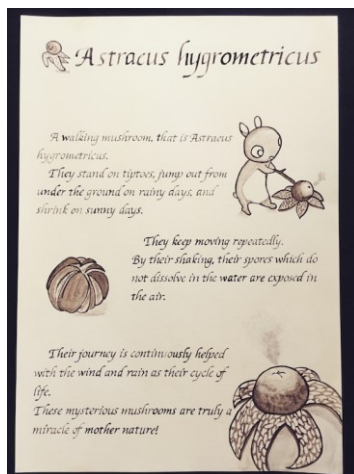
『きのこの王様』
ヤマドリタケモドキ



『地下で進化を遂げたきのこ』
トリュフ



『インクきのこ』
ササクレヒトヨタケ



『歩くきのこ』
ツチグリ



今後も、孢子画フロンティアとして、この活動を続けていきたいと思っています。